

全国環境研協議会加盟機関が実施している生物学的調査研究(平成27年度)

全国環境研協議会環境生物部会では、生物学的調査研究に関する情報交換を進め、共同研究への発展等に資することを目的として、加盟機関に生物学的調査研究の実施状況についてアンケート調査を実施しています。下表は、平成27年度に実施している調査研究課題名および概要をまとめたものです。

実施機関名	地方独立行政法人北海道立総合研究機構 環境・地質研究本部環境科学研究センター
調査研究課題名 および概要	生態系タイプを考慮したセイヨウオオマルハナバチの影響把握と防除手法の検討 海岸、森林、農地等の様々な生態系において、外来マルハナバチが在来マルハナバチと植物の繁殖へ及ぼす影響を解明するとともに、簡易で効率的なモニタリング手法と駆除手法を開発する。
調査研究課題名 および概要	捕獲情報を用いたエゾライチョウのモニタリング手法に関する研究 狩猟鳥でありながら希少種であるエゾライチョウを対象に、捕獲位置情報の活用策を検討するとともに、現地調査により生息数及び生息環境を分析する。
調査研究課題名 および概要	湿原生態系保全に関する研究(湿原植生定期モニタリング) 湿原保全プランを策定した湿原について、その植生変化を継続的にモニタリングし、変化の要因や保全管理対策を検討する。
調査研究課題名 および概要	野生動物分布等実態調査 ヒグマの保護管理の実施に必要な分布、生態、個体数等を把握するため、全道での広域痕跡調査(ヒグマの痕跡のモニタリング)や捕獲個体分析(捕獲個体の年齢査定、胃内容物、栄養分析)、捕獲統計調査などによる全道のヒグマのモニタリング実施している。
調査研究課題名 および概要	渡島半島ヒグマ対策推進事業 「渡島半島地域ヒグマ保護管理計画」に基づき、被害の軽減やヒグマの適切な保護管理など総合的なヒグマ対策の推進に資するため、ヒグマ個体群モニタリング調査及び被害防除技術の研究開発等を実施する。
調査研究課題名 および概要	エゾシカ総合対策事業 「エゾシカ保護管理計画」(第4期、平成24年3月策定)に基づき、エゾシカの分布、生態、個体数等の調査研究により適正な保護管理の推進を図るため、個体群調査の一環としてのライトセンサス、航空機調査、捕獲個体分析、捕獲状況調査などを実施する。
調査研究課題名 および概要	希少野生動植物保護対策推進事業 「北海道希少野生動植物の保護に関する条例」に基づき、道内に生息・生育する絶滅のおそれのある野生動植物の保護対策の推進に資するため、指定植物の生育状況モニタリング調査を行うとともに、指定外であっても希少性の高い植物について繁殖特性等の詳細な生態調査を実施する。
調査研究課題名 および概要	森林管理と連携したエゾシカの個体数管理手法に関する研究 森林の管理と一体的にエゾシカの個体数管理を推進するため、連携体制のモデルを構築し、対象森林におけるエゾシカの相対密度把握手法及びエゾシカによる天然林被害評価手法を開発し、森林資源データ等を活用した捕獲適地の抽出手法及び効果的な捕獲技術を確立する。

(続き) 地方独立行政法人北海道立総合研究機構 環境・地質研究本部環境科学研究センター

調査研究課題名 および概要	流域開発により起きた水質環境変化と植生を指標とした湖沼評価手法の検討 農畜産業の盛んな地域と人為的影響の少ない地域の湖沼について、湖内や流入河川の水質と湖岸の植生との関係を把握し、今後の保全や再生にむけた湖沼環境を湖水の水質と湖岸植生の両面から評価する手法を検討する。
実施機関名	岩手県環境保健研究センター
調査研究課題名 および概要	希少植物の種の保存および地域資源としての活用に関する研究 岩手県において絶滅の危険性が高まっている植物を対象に「種の保存」を進める増殖技術の開発を検討する。特に本県の歴史や、文化・産業に深いかかわりを持つ植物を対象にする。本研究で開発した技術は、国内の絶滅危惧植物の種の保存および本県の環境保全政策に役立てるのはもちろん、地域の産業振興や農業振興などの高度な要求に応えられるよう取り組む。 [URL] http://www.pref.iwate.jp/kanhoken/kenkyuu/006934.html
調査研究課題名 および概要	イヌワシ个体群の生態的特性および遺伝的構造に関する研究 絶滅可能性の推定に不可欠な个体群としての特性の把握に重点を置き、個体の追跡調査や、羽根、卵殻、ペレット等のサンプルによる遺伝子解析を通して、移動分散や遺伝的多様性に関する知見を収集する。 [URL] http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/shizen/inuwashi/top.htm
調査研究課題名 および概要	ヘア・トラップ法によるツキノワグマの生息動向と個体数推定法の開発 本研究ではヘア・トラップ調査のモデル地域を設定し、個体群のトレンドを把握すること及び継続したヘア・トラップ調査の結果を組み入れる統計シミュレーションモデルを試行し、岩手版の生息動向と個体数推定法を確立することを目的とする。 [URL] http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/shizen/mammal/work/mammal-work.html
調査研究課題名 および概要	ニホンジカの個体数推定と将来予測に関する基礎的研究 ニホンジカの生息数推定法を開発するため、各事業のデータを用いてシミュレーションモデルを構築する。
調査研究課題名 および概要	ウイルス媒介性節足動物(ヒトスジシマカ)の生息に関する研究 デング熱等のウイルス疾患を媒介する感染症対策上重要な節足動物であるヒトスジシマカの岩手県内における生息分布状況を明らかにするとともに、年平均気温等の生息条件を検討することにより、節足動物媒介性ウイルス疾患の予防対策及び地球温暖化防止対策に資することを目的とする。 [URL] http://www.pref.iwate.jp/kanhoken/kankyuu/006922.html
実施機関名	山形県環境科学研究センター
調査研究課題名 および概要	ブナ・ナラ豊凶調査 森林の更新や野生動物の生息動向に大きな影響を与えるブナ・ナラ等の豊凶調査等を行っている。
調査研究課題名 および概要	自然生態系保全モニタリング調査 県内における自然環境の実態を把握し、その生態環境の異変等を早期に察知すると共にその原因を解明することを目的に、里山や山岳部において、動植物の生息・生育状況等自然環境の調査を行っている。

実施機関名	福島県環境創造センター
調査研究課題名	猪苗代湖における水質悪化及び大腸菌群数の環境基準超過
および概要	猪苗代湖における大腸菌群数が環境基準を超過することが見受けられることから、流入する河川水及び湖水面の調査や種の同定を行い、分布状況を把握する。
調査研究課題名	猪苗代湖の水環境に関する研究
および概要	猪苗代湖の中性化に伴い、特有の自然浄化機能が低下し、COD上昇及び大腸菌群数の環境基準超過など水質の悪化の傾向があることから、湖水中性メカニズムの解明及び汚濁負荷原因の解明を進めることにより水質汚濁の原因を明らかにし、水質改善へ向けた効果的な方法等について研究する。 [URL] http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/102757.pdf
調査研究課題名	野生生物における放射性核種の挙動及び行動予測
および概要	野生動物の生体内における放射性セシウムほか放射性核種の挙動、食物連鎖による野生生物間での移行等の調査を行う。 食物連鎖に係る野生動物の食性を含む行動解析、年及び季節毎の野生生物の行動予測・筋肉中放射性核種濃度の変動に関する研究等を行う。 [URL] http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/102757.pdf
実施機関名	新潟市衛生環境研究所
調査研究課題名	新潟市河川における水生底生生物実態調査
および概要	ASPT 値について、河川の水質の重要な指標である BOD 等との関連を経年的に見るため、長期の水質状況が把握できる公共用水域の常時監視地点を考慮した地点で調査を実施している。 また、ASPT 値の変動が特に大きかった西川下流域の地点についても、採取方法等を工夫し、評価方法を検討しているところである。
実施機関名	茨城県霞ヶ浦環境科学センター
調査研究課題名	アオコの動態解明に関する研究
および概要	アオコの発生・移動・集積機構を解明し、アオコ動態モデルによるアオコの発生予測を行う。
調査研究課題名	干潟・浅場や藻場が里海里湖流域圏において担う生態系機能と注目生物種との関係
および概要	霞ヶ浦におけるアオコの発生状況と発生要因を明らかにするため、藍藻類に特有の色素であるフィコシアニンを指標に、アオコの発生状況を把握するとともに、水質や気象との関連を検討する。
実施機関名	埼玉県環境科学国際センター
調査研究課題名	県民参加を主体とした光化学オキシダント(オゾン)によるアサガオ被害調査
および概要	毎年7月に、県民参加により、県内で生じる光化学オキシダントによるアサガオ被害の状況を調べる。具体的には、県民の協力により、県内約100地点程度でアサガオの葉に発現するオゾン被害を調査するとともに、その被害状況を地図化し、ホームページ等で公開する。 [URL] http://www.pref.saitama.lg.jp/cess/torikumi/asagaotyousa/index.html

実施機関名	千葉県環境研究センター
調査研究課題名	糞便性指標「大腸菌群」の試験法の確立
および概要	糞便性指標「大腸菌群」について試験操作方法を検討し、試験法および分析条件の確立を行う。
調査研究課題名	生物応答を用いた排水管理手法(WET)に関する研究
および概要	国での導入が予定されている生物応答を用いた排水管理手法(WET)の検討(ミジンコを用いた繁殖阻害試験等)を行う一方、WETで排水に異常が検出された場合の対応が可能となるよう、千葉県で先行して行ってきたメダカの遺伝子発現解析と新しい化学分析技術(GC×GC-HRTOFMSを用いた国立環境研究所等との科研費共同研究、H26～28)を組み合わせ、より詳細に排水中の未規制化学物質及び複数化学物質の生物影響についての評価を行う。
調査研究課題名	千葉県内のプランクトンの生息状況に関する研究
および概要	<p>プランクトンは、DNAレベルで見ると、人と同じように、個々が全く同じとは言えないため、千葉県内のプランクトンの種類が把握されているとしても、環境が変動している以上、なお、そのサイズや生息状況は日々変動していると考えられる。</p> <p>よって、継続的なプランクトン調査を行い、水質監視データとの比較検討と併せて、調査を行う。</p> <p>なお、成果やプランクトンの情報は、分かりやすくHPに発表するなどして、学習資料として、県民に活用してもらうこととする。</p>
実施機関名	山梨県衛生環境研究所
調査研究課題名	山梨県内河川の付着珪藻群集組成からみた水質判定
および概要	着珪藻は生息する水環境により構成種が異なることが知られている。それを利用して長期間の水環境を推測する手法も提案されている。本研究では県内の湖沼、河川で採取した付着珪藻の観察を行い珪藻アトラスを作成するとともに、各水域の水環境を判定することを目的とする。
調査研究課題名	富士五湖における水生植物調査
および概要	富士五湖における水生植物の水平分布調査を実施することで、水生植物種・量の変遷をモニタリングする。
調査研究課題名	県内水環境における外来底生生物調査
および概要	県内に生息が確認されている外来プラナリアとコモチカワツボの生息地におけるモニタリングを行うとともに、新たな外来生物の侵入状況について情報収集を行う。
調査研究課題名	県内水環境における病原性自由生活アメーバの感染リスク評価
および概要	県内水環境における病原性自由生活アメーバの分布状況等を基に、その感染リスクを検討する。
調査研究課題名	市街地を中心とする蚊類の発生状況調査
および概要	病原媒介性が高くかつ市街地に発生源を持つアカイエカ、ヒトスジシマカについて、発生状況を調査して新興感染症対策の基礎資料とする。

(続き)山梨県衛生環境研究所

調査研究課題名	県内のスギ、ヒノキ花粉の飛散状況に関する調査
および概要	花粉症の原因となるスギ、ヒノキ花粉の飛散状況をダーラム法で観測し、自動測定法の結果と比較検討するとともに、飛散開始時期や飛散量の予測を行う。
実施機関名	長野県環境保全研究所
調査研究課題名	野生鳥獣の保護管理に向けた生態解明及び被害対策の普及啓発
および概要	本研究では、特に問題になっている野生鳥獣の生態調査や保護管理に関わるモニタリング調査を行うことにより、県行政が進める保護管理計画や被害対策に資する基礎資料を提供するとともに、専門的な立場から対策の普及啓発を行うことを目的とする。このため、シカ・クマや魚食性鳥類の生態調査、保護管理計画にともなうモニタリング調査、サル対策に関わる環境教育などを行う。なお、野生鳥獣の保護管理に関わる研究プロジェクトは、平成13年より3年ごとに内容を見直しながら進めており、今後は魚食性鳥類も含めて調査研究を行っていく。 [URL] http://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/chosa/kenkyu/yase/index.html
調査研究課題名	長野県の生物多様性の総合評価と保全に関する調査研究
および概要	本研究は生物多様性ながの県戦略の目標・行動計画の達成手段をあきらかにし、その達成に貢献することを目的とする。特にレッドリストの改訂、生物多様性ホットスポットの選定、草原生態系の保全と再生に必要な情報を提供し、また戦略の2020年目標達成にむけた科学的中間評価報告を、計5か年で行う計画である。 [URL] http://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/chosa/kenkyu/tayose/index.html
調査研究課題名	外来生物に関するモニタリングと普及啓発に関する調査研究
および概要	外来生物は、生物多様性への脅威、農林水産業や人身への被害、病原体の媒介など、様々な影響が懸念されている。長野県でもすでに定着し分布拡大している外来生物も多い。そこで、外来生物のモニタリングと対策に関する調査研究を行っている。いきものログを活用して、外来生物の情報を収集・管理・発信する仕組みの構築や、アメリカミンクやアライグマの年齢査定、カラドジョウの生息状況調査、ウチダザリガニの駆除実験、ホソオチヨウの捕獲調査、アカボシゴマダラの生息状況調査、オオカワヂシャの生育状況確認などを行った。 [URL] http://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/chosa/kenkyu/gairai/index.html
調査研究課題名	高山帯における生態系モニタリングの推進に関する調査研究
および概要	高山帯では気候変動による生物群集への影響のほか、北アルプスでもニホンジカの摂食圧増加による植生変化や生態系への影響が危惧されている。そのため、高山生態系に関するモニタリング事業を県下高山帯で推進させるために、モニタリングサイト構築および調査手法、データ公開に関する技術開発とマニュアル類の整備をすることを目的とする。北アルプス爺ヶ岳で、気象観測・インターバルカメラ設置・赤外線センサーカメラ設置を行った。センサーカメラによる高山帯の鳥類相・ほ乳類相の調査では、ニホンジカ(のべ5頭)を確認した。 [URL] http://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/chosa/kenkyu/kozan/index.html

実施機関名	静岡県環境衛生科学研究所
調査研究課題名 および概要	<p>外来不快害虫ヤンバルトサカヤスデの分布・生態特性の解明</p> <p>1980年代に台湾から沖縄に侵入し、近年本州でも確認されている外来種ヤンバルトサカヤスデは、秋の繁殖期に異常発生して集団で壁によじ登ったり家屋に侵入するなどの不快性被害を引き起こし、静岡県内でも問題となっている。本研究では、本種の県内分布を把握するとともに、移入地における生態特性や環境適応度を把握し、分子生物学的手法を用いて分布拡大パターンを解明することにより、定着可能域の推定及び移入の未然防止に貢献することを目指す。</p>
実施機関名	さいたま市健康科学研究センター
調査研究課題名 および概要	<p>アズマモグラの繁殖生理に関する研究</p> <p>モグラは地中にトンネルを作る習性により田畑や堤防などに影響を及ぼしうる身近な動物である。しかしこれまでのところ、その繁殖に関してはあまり明らかにされていない部分が多い。そこでモグラの害を防ぐために有益な情報を提供することを目的とし、このモグラの繁殖生理について調査する。</p>
調査研究課題名 および概要	<p>生物応答手法を用いた河川水水質調査のパイロットスタディ</p> <p>環境省が導入を検討している、生物応答手法を用いた排水検査のうちニセネコゼミジッコを用いた排水試験法の検査を行えるようにする。</p> <p>また、その手法を用いてさいたま市内の河川水の水質調査を行う。</p>
実施機関名	川崎市環境総合研究所
調査研究課題名 および概要	<p>WET手法を用いた水環境調査のケーススタディ</p> <p>本研究はいくつかの地方環境研究所および国立環境研究所と共同で行っている。各地域で生物影響がありそうな環境水や事業所排水について、いくつかの研究所で同じサンプルをWET手法を用いて試験を行い、環境を評価した。同時に試験結果を持ち寄り、比較しあうなどし、試験精度の確認などを行った。また、年に数回行うワークショップでは生物応答を用いた試験についての情報交換などを行った。</p>
調査研究課題名 および概要	<p>魚類の胚・仔魚期における短期毒性試験のオプションとしての EROD 活性測定手法の検討</p> <p>生物応答を用いた排水試験法(検討案)や WET 手法では、試料水が生物へ及ぼす影響の度合いは分かるが、原因についての情報を得ることは難しい。本研究では、上記のうち魚類の試験において、試験終了後の稚魚を用いた、PAHs の曝露と相関のあるバイオマーカーである EROD 測定方法について検討した。本手法により、試料水中の PAHs の存在の有無についての情報を得ることが出来る可能性が示された。</p> <p>[URL] http://www.city.kawasaki.jp/300/cmsfiles/contents/0000064/64918/2-3.pdf</p>

(続き)川崎市環境総合研究所

<p>調査研究課題名 および概要</p>	<p>川崎市環境基本計画及び川崎市水環境保全計画に基づく市内河川、親水施設、多摩川河口干潟及び東扇島東公園人工海浜における水質・底質・水生生物調査並びにゼブラフィッシュ、ニセネコゼミジンコ及びムレミカヅキモを供試生物として用いた生態影響試験による化学物質リスク評価方法の検討</p> <p>○市内河川及び親水施設における水質・水生生物調査 ○多摩川河口干潟における底質・水生生物調査 ○東扇島東公園人工海浜における底質・水生生物調査 ○魚類、甲殻類及び藻類を供試生物として用いた生態影響試験</p> <p>[URL]年報のページに過去の調査結果を掲載 http://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-3-8-17-0-0-0-0-0.html</p>
<p>実施機関名</p>	<p>浜松市保健環境研究所</p>
<p>調査研究課題名 および概要</p>	<p>干潟・浅場や藻場が里海湖流域圏において担う生態系機能と注目生物種との関係</p> <p>平成 27～29 年度「干潟・浅場や藻場が里海湖流域圏において担う生態系機能と注目生物種との関係」という国立環境研究所とのⅡ型共同研究へ参画している。</p> <p>佐鳴湖をフィールドとして、公共用水域の水質測定、プランクトンや水草調査などによって得られたデータを基にして、諸課題についての情報を提供するとともに、他自治体との情報交換をする。</p>
<p>実施機関名</p>	<p>愛知県環境調査センター</p>
<p>調査研究課題名 および概要</p>	<p>絶滅危惧種フォローアップ調査</p> <p>レッドリストあいち 2015 に掲載されている絶滅危惧種及び今後絶滅危惧種となるおそれのある種について、最新の生息生育情報を収集・解析する。</p>
<p>調査研究課題名 および概要</p>	<p>油ヶ淵における生物多様性モニタリング手法の開発</p> <p>愛知県の天然湖沼である油ヶ淵において、過去からの動植物生息生育状況のデータベース化を行う。さらに、水生植物の生育調査を行うとともに、水質との関係を解析することで、油ヶ淵における生物のモニタリング手法の開発を行う。</p>
<p>調査研究課題名 および概要</p>	<p>愛知県の希少野生動植物種についての研究</p> <p>愛知県では、平成 8 年度から、レッドデータブックの策定・改訂や条例による指定希少野生動植物種の指定等のために、希少野生動植物種について調査を行ってきたが、これらの調査データについて、今後の利用のためにデータベース化を行う。</p>
<p>実施機関名</p>	<p>滋賀県琵琶湖環境科学研究センター</p>
<p>調査研究課題名 および概要</p>	<p>北湖深水層と湖底環境の総合的把握</p> <p>サブテーマは以下の 3 つがあり②を実施</p> <p>① 水深別水質調査と深湖底における酸素消費の実態把握 ② 低酸素化に伴う深層生態系への影響把握 ③ モデル解析等による低酸素化現象の総合評価</p> <p>*②の実施内容は、マンガン酸化粒子であるメタロゲニウムのモニタリング調査の実施</p> <p>[URL] http://www.pref.shiga.lg.jp/d/biwako-kankyo/lberi/01shiru/01-01kenkyuu/files/cyosa1.pdf</p>

(続き) 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター

調査研究課題名	琵琶湖・瀬田川プランクトン等モニタリング調査
および概要	<p>1.琵琶湖におけるモニタリング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植物プランクトン、動物プランクトン、ピコプランクトン <p>(北湖 4 地点(6 検体),南湖 1 地点で年 24 回)</p> <p>2.瀬田川プランクトン調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植物プランクトン、動物プランクトン、ピコプランクトン <p>(1 地点で年 52 回、毎週 HP で結果公表)</p> <p>⇒プランクトンのモニタリング結果を理化学的な水質調査結果と併せて解析・評価し、環境審議会等の場で報告する。</p> <p>[URL]プランクトン観測室</p> <p>http://www.pref.shiga.lg.jp/d/biwako-kankyo/lberi/02shiraberu/02-04plankton/02-04plankton.html</p>
調査研究課題名	化学物質の影響把握と総量リスク評価手法の検討
および概要	<p>サブテーマ: 総量リスク評価のための生態影響試験等の手法確立</p> <p>個別の化学物質にかかる機器分析では難しい化学物質総量としてのリスク評価を行うため、生物を用いた生態影響試験法を確立する。</p> <p>[URL] http://www.pref.shiga.lg.jp/d/biwako-kankyo/lberi/01shiru/01-01kenkyuu/01-01kenkyuu.html</p>
調査研究課題名	沿岸帯の底質環境・生態系機能に及ぼす影響因子の評価
および概要	<ul style="list-style-type: none"> ①沿岸帯の人工化に及ぼす水質やプランクトンに関する研究 ②沿岸帯底質のシードバンク機能の評価に関する研究 ③沿岸帯の生産量およびアオコ発生要因の解析に関する研究 ④沿岸帯における底質とベントスの関係に関する研究沿岸の利用 ⑤沿岸帯の利用形態と仔稚魚－餌生物間の生物間相互作用との関係 <p>[URL]https://www.env.go.jp/policy/kenkyu/suishin/kadai/syuryo_report/h25/pdf/5B-1102.pdf</p>
実施機関名	京都府保健環境研究所
調査研究課題名	アルゼンチンアリの補完的防除に関する検討
および概要	<p>特定外来生物のアルゼンチンアリ防除を目的とした住民協働の「京都市伏見区アルゼンチンアリ対策協議会」の地域一斉防除対策に協力し、防除作業の効果の検証と評価を継続実施している。また、本種の根絶をめざすための先行的研究を行い、防除対策の次のステップを検討することとしている。</p> <p>[URL] http://www.pref.kyoto.jp/hokanken/documents/nenpou57_99.pdf</p> <p>http://www.pref.kyoto.jp/hokanken/documents/nenpou58_99.pdf</p> <p>http://www.pref.kyoto.jp/hokanken/documents/nenpou59-08.pdf</p> <p>http://www.pref.kyoto.jp/hokanken/documents/nenpou59-99.pdf</p>

(続き) 京都府保健環境研究所

調査研究課題名	地域の生物相調査から行う環境影響評価研究
および概要	<p>1999年から実施しているチョウ類等の生物モニタリング調査を継続実施し、研究所構内のビオトープの評価手法と地域の生物相と環境の変化について検討している。加えて、年ごとに調査対象生物群を設定し、2014年は歩行性甲虫、2015年は蚊類と土壤生物とし、環境評価を実施した。</p> <p>[URL] http://www.pref.kyoto.jp/hokanken/documents/nenpou59-09.pdf http://www.pref.kyoto.jp/hokanken/documents/nenpou58_10.pdf</p>
調査研究課題名	ネオニコチノイド系農薬の脊椎動物に対する安全性について
および概要	<p>水田生態系の保全を目的とし、現在、有機リン系農薬に代わって使用されている殺虫剤(ネオニコチノイド系農薬)による非ターゲット動物への毒性を試験する。初年度はオタマジャクシを用いて、主要なネオニコチノイド系農薬による急性毒性を明らかにする。</p>
調査研究課題名	京都府の淡水ガメ実態調査
および概要	<p>京都府南部のため池群及び小河川において、カメの活動期に捕獲調査を実施し、固有種ニホンイシガメ、外来種ミシシippアカミガメ等の生息実態調査を行う。</p> <p>[URL] http://www.pref.kyoto.jp/hokanken/documents/tayori111.pdf</p>
実施機関名	地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所
調査研究課題名	シカ・イノシシのモニタリング調査
および概要	<p>農林業被害の軽減・人と野生鳥獣の共存を図るため、大阪府では鳥獣保護管理法に基づくシカ・イノシシの第二種鳥獣管理計画を策定している。この管理計画の策定や進捗状況の点検のためには、地域におけるシカ・イノシシの生息状況や被害状況などの定期的なモニタリングが必須である。そこで、大阪府シカ・イノシシ第二種鳥獣管理計画の進捗状況を点検見直しするための基礎資料を提供する。</p> <p>[URL] http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/_files/00057622/h26_09seisoku.pdf</p>
調査研究課題名	外来生物対策調査業務
および概要	<p>本来日本には生息しない外来種であるアライグマは、近年生息域を広げて農業被害が拡大しており、大阪府では外来生物法に基づく防除実施計画を策定して対策を実施している。計画の策定や進捗状況の点検のためには、アライグマの生息状況や被害状況など定期的なモニタリングが必須である。そこで、大阪府アライグマ防除実施計画の進捗状況を点検見直しするための基礎資料を提供する。</p> <p>[URL] http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/_files/00057622/h26_09seisoku.pdf</p>
調査研究課題名	シカ被害変動要因の解明
および概要	<p>農地や植林地という人為攪乱環境の存在が、自然林におけるシカの採食行動に与える影響を把握し、シカ1頭あたりの被害強度を変動させる要因を解明する。</p> <p>[URL] http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/_files/00056403/H25-nihonjika.pdf</p>

(続き) 地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所

調査研究課題名	放置竹林の樹種転換のための基礎調査
および概要	<p>近年、管理放棄された竹林が休耕地、人工林、二次林に侵入し、農地、里山の荒廃を引き起こしている。このような放置竹林に対して、府では放置森林対策行動計画に基づき、「タケ伐採や稚樹管理によって放置竹林を他の植生(広葉樹など)に樹種転換する」などの対策を講じているがそのために必要なタケの伐採期間や、伐採地の植生がどのように移り変わっていくのか明らかになっていない。</p> <p>本研究は、タケの伐採がタケの衰退および他の樹種の稚樹の消長に及ぼす影響を明らかにし、放置竹林を樹種転換するための基礎的な知見を得ることを目的とする。</p>
調査研究課題名	イタセンパラ保護定着調査
および概要	<p>国の天然記念物の淡水魚イタセンパラは、河川改修によるワンドの消失、河川の攪乱の減少、外来魚の増加などにより個体数が著しく減少し、平成 17 年を最後に生息確認が途絶えた。そこで、当研究所では、国土交通省 近畿地方整備局 淀川河川事務所とともに、本種を当所の保存池で飼育継代するとともに、淀川ワンド群の生物多様性復元の一助とするため、イタセンパラ放流ワンドでの本種を含めた在来魚の生息・繁殖状況を明らかにする。また、外来水生生物の実態を把握し、駆除技術を開発するとともに、本種を含めた在来魚種に感染する恐れのある魚病検査を実施する。</p> <p>[URL] http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/kankyo/gijutsu/seika/hogo/itasen/saidounyu.html</p> <p>http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/_files/00057783/h26_07itasenpara.pdf</p>
調査研究課題名	希少魚の保護増殖試験
および概要	<p>都市化に伴う生息環境の悪化等により、府内では魚など多くの水生生物に生息数の著しい減少がみられるようになった。そこで、大阪府における保護上重要な野生生物(レッドデータブック)で絶滅危惧種に指定され、現在絶滅が危惧されているイタセンパラやニッポンバラタナゴなどについて、種の系統保存を図るとともに、その生息状況を把握する。</p> <p>[URL] http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/kankyo/gijutsu/seika/hogo/index.html</p>
調査研究課題名	淡水生物増殖試験
および概要	<p>大阪府における保護上重要な野生生物(レッドデータブック)に記載されている希少水生生物を保護するための調査試験を行う。平成 15 年度から平成 26 年度にかけては水生植物ミズアオイ、平成 27 年度からは淡水二枚貝のイシガイ類の保全に取り組んでいる。</p> <p>[URL] http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/kankyo/gijutsu/seika/mizukusa.html</p>
調査研究課題名	安威川ダム魚類補足調査業務
および概要	<p>平成 32 年の竣工に向けてダム建設工事が進んでいる安威川において、アジメドジョウをはじめとした魚類、水生動物、付着藻類、植生を調査し、ダム建設を進める上で保全すべき環境要素や留意点を明らかにする。</p> <p>[URL] http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/kankyo/gijutsu/seika/ai.html</p>

(続き) 地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所

調査研究課題名	漁業権河川調査
および概要	大阪府内 8 河川に設定されている漁業権免許の更新時には、漁業法第 11 条に基づいた漁業計画の策定が必要となる。漁業計画策定に際しては、漁場の有効性等を検討する必要があることから、河川漁業権漁場の総合的な実態調査を実施する。アユ漁が終わった時期に無機的环境、付着藻類、底生動物、魚類の調査を実施する。
実施機関名	和歌山県環境衛生研究センター
調査研究課題名	洪水が底生動物に及ぼした影響と回復過程の調査
および概要	平成 23 年 9 月、台風 12 号による記録的な大雨により、那智勝浦町を流れる二級河川的那智川では大洪水がおき、生息していた底生動物の数や分布に大きな影響を与えたと考えられる。本調査では、これらの影響や、回復過程において生息する種や数の変化を確認する。
実施機関名	名古屋市環境科学調査センター
調査研究課題名	市内希少種の保全とこれに関わる外来種の影響についての研究
および概要	市内の湿地に生息する希少種や外来種について、分布状況等の現状を把握するとともに、遺伝子調査等により、外来種の市内への侵入状況や在来種への影響を調べるための研究を行っています。 [URL] http://www.city.nagoya.jp/kankyo/page/0000067013.html
調査研究課題名	生物応答を用いた排水試験法(WET)における毒性削減方法の検討に関する調査研究
および概要	WET 手法を用いて生物影響が確認された際に、その傾向から毒性物質群を推定し、その物質に適した簡易処理を行うことで、迅速に、低コストで毒性物質群を削減する方法を研究しています。 [URL] http://www.city.nagoya.jp/kankyo/page/0000067013.html
調査研究課題名	底質を用いた VOC 汚染除去に関する研究
および概要	揮発性有機化合物(VOC)で汚染された地下水が河川に拡がるのを防ぐため、底質中の分解微生物による処理技術の検討を行っています。 [URL] http://www.city.nagoya.jp/kankyo/page/0000067013.html
実施機関名	大阪市立環境科学研究所
調査研究課題名	風で揺れる葉の意義に関する研究
および概要	樹木の中には風雨により容易に葉が揺れる種とそうでない種がある。本研究では、前者の樹種で風により受動的に葉が動かされることが、植食性昆虫による樹木の食害を減少させる効果があるかを検討している。緑化害虫などの防除に利用できる可能性がある。

実施機関名	岡山県環境保健センター
調査研究課題名	児島湖のユスリカ幼虫調査
および概要	<p>児島湖の周辺地域では、平成 11 年頃からユスリカの大量発生が問題となっている。特に、平成 18 年以降大量に発生したユスリカが外壁・洗濯物、商店の商品等に付着し、不快害虫として問題となり、対策として集落地区に近い場所に誘蛾灯が設置された。また、近年苦情等被害状況は減少してきているが、住宅地と近接する湖南部はユスリカ幼虫個体数が多く確認されていることから、湖南部を含む湖内 3 地点で継続調査を行っている。ユスリカ大量発生の根本原因の解明のために棲息環境である底質も含め解析中であり、ユスリカ棲息状況の知見を対策検討の一助とする。</p>
実施機関名	山口県環境保健センター
調査研究課題名	瀬戸内海西部海域における栄養塩類濃度の変遷について
および概要	<p>近年、瀬戸内海の貧栄養化による水産資源の量および質の低下が指摘されている。一方で、瀬戸内海に陸域から供給される栄養塩類量がどのような変遷をたどってきたかは不明な点が多く、特に西部海域について顕著である。そこで、地方自治体を実施している公共用水域の常時監視データを中心に、栄養塩類の実測値変遷を明らかにし、漁獲量等の生物量データと比較解析することにより、きれいで豊かな瀬戸内海を創出する為の基礎資料とする。</p>
実施機関名	香川県環境保健研究センター
調査研究課題名	ニッポンバラタナゴ <i>Rhodeus ocellatus kurumeus</i> の遺伝子解析
および概要	<p>ーニッポンバラタナゴ香川個体群の遺伝子モニタリングー</p> <p>ニッポンバラタナゴはコイ科タナゴ亜科に属する日本固有の小型淡水魚で、環境省のレッドデータブックでも絶滅危惧 I A 類(CR)に指定されている。香川県の東讃地域はニッポンバラタナゴの貴重な生息地である。</p> <p>ニッポンバラタナゴの保護には、交雑のおそれのあるタイリクバラタナゴとの正確な判別が不可欠であるが、両亜種は形態に差異が少なく、外見では判別が困難である。そのため、ミトコンドリア DNA の PCR-RFLP 分析による遺伝子モニタリングを行っている。</p> <p>[URL] http://www.pref.kagawa.jp/kankyo/e_center/syohou/2014.htm</p>
実施機関名	愛媛県立衛生環境研究所
調査研究課題名	希少野生動植物「コガタノゲンゴロウ」の調査・研究
および概要	<p>愛媛県の特定希少野生動植物「コガタノゲンゴロウ」は、絶滅が危惧されているものの、生態については不明な部分が多い。</p> <p>そこで、生息の状況や環境を調査・研究し、生態を明らかにし、本種の広域的な回復に向けた資とする。</p> <p>[URL] http://www.pref.ehime.jp/h25115/biodiversity/</p>

実施機関名	福岡県保健環境研究所
調査研究課題名	英彦山ブナ林生態系における生物多様性の保全と再生
および概要	県内最大の面積を占め、多くの絶滅危惧種が生息・生育する英彦山ブナ林は、台風被害等によりブナの衰弱・枯死が進み、最近ではシカの食害により林床植生が貧弱化している。このような生態系の劣化が進行している英彦山ブナ林を対象に総合的な生態調査を実施し、ブナ林生態系の保全と再生の方向性を検討する。
調査研究課題名	山地森林生態系の保全に係わる生物・環境モニタリング
および概要	日本各地におけるブナ林やその他衰退が懸念される山地森林生態系の評価と保全対策に資するための生物・環境モニタリングについての標準マニュアルを作成する。国環研Ⅱ型共同研究として実施する。
調査研究課題名	福岡県における侵略的外来種の定着状況把握とその影響評価
および概要	福岡県の地域性をふまえ、特定外来生物の指定種に加えて法的には規制されていない侵略的外来種を含めたリスト(外来種ブラックリスト:仮称)を作成する。また、抽出された外来種が生態系等に与える影響を評価し、カテゴリー区分することにより、優先的に対策が必要な種を整理し、多様な主体による計画的な防除等の外来種対策に資する。
調査研究課題名	福岡県生物多様性戦略推進のための生物多様性指標の開発
および概要	福岡県生物多様性戦略(平成25年3月策定)において、都市や河川、ため池、水田、森林などの生物多様性の状況がかわる指標を開発し、市町村やNPO等が行う生物多様性評価や取組の進捗状況の把握等を支援し、保全の取組を促進することが記されている。そこで、本研究では、基礎的データ収集に基づいて、生物多様性評価を行うための新たな生物指標を開発する。
調査研究課題名	植物の環境ストレス診断法の確立と高度化に関する研究
および概要	植物を用いた環境影響評価によって環境情報の充実と大気環境の保全に取り組むため、分子メカニズムに基づく野外におけるストレス診断方法を実地検証して確立し、その高度化を図る。国環研Ⅱ型共同研究として実施する。
実施機関名	長崎県環境保健研究センター
調査研究課題名	再生砂による浅場づくり実証試験事業 -維持管理手法の検討-
および概要	再生砂を覆砂した生息場を大村競艇場横の水路に造成したところ、生息場内から多くのアサリが採取され、造成効果を確認することができた。次の段階として造成効果をより長く維持する手法を検討する。 本事業では、干潟の底質改善で実施例のある人工巣穴と耕耘を生息場において実施し、次に生息場内の耕耘実施区域と非実施区域の底質およびアサリ現存量などをモニタリングして、最後に生息場の底質環境維持に最も効果的な手法を検証する。 [URL] 所報のページに過去の調査結果を掲載 http://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/kenseijoho/koho/info/shoho/

(続き)長崎県環境保健研究センター

<p>調査研究課題名 および概要</p>	<p>再生砂による浅場づくり実証試験事業</p> <p>本事業は陶器くずや廃ガラスを原料とした再生砂を用いて、人工的に浅場を造成し二枚貝の生息数を拡大することで、大村湾内での浅場の有効性を実証するものである。</p> <p>1ヘクタールの浅場を造成する大村市沿岸海域の造成前と造成後の底生生物や底質などのモニタリング調査を行う。</p> <p>[URL] 所報のページに過去の調査結果を掲載 http://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/kenseijoho/koho/info/shoho/</p>
<p>調査研究課題名 および概要</p>	<p>平成27年度国営干拓環境対策調査 水質負荷削減対策調査検討委託事業 －二枚貝(マシジミ)生息可能性調査－</p> <p>これまでの調査により、マシジミは生育場を整えれば用水路底の様な環境下でも成長できることが明らかとなった。次のステップとして再生産の有無を調査することによって造成した生育場におけるマシジミ増殖の可能性を検討する。</p> <p>[URL] 所報のページに過去の調査結果を掲載 http://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/kenseijoho/koho/info/shoho/</p>
<p>調査研究課題名 および概要</p>	<p>諫早湾干拓調整池におけるイケチョウガイの地蒔き飼育の可能性に関する研究</p> <p>水質浄化能力に優れた淡水性二枚貝であるイケチョウガイを諫早湾干拓調整池内での大量飼育につなげていくために、実際にイケチョウガイを調整池において地蒔き飼育し、その生育状況等について調査を行い、地蒔き飼育の可能性について検証する。</p>
<p>実施機関名</p>	<p>宮崎県衛生環境研究所</p>
<p>調査研究課題名 および概要</p>	<p>水辺環境学習の充実化に向けた県内主要河川における水生生物の調査研究</p> <p>宮崎県内の小中学校等で行われる「水辺の学習」は、本県が平成17年度に策定した「だれにでもできる五感を使った楽しい水辺の調査 指導者用マニュアル」に沿って実施されている。しかし指標に挙げられている水生生物は本州を中心としたものであり、本県にはそぐわない部分があるため、本県の水辺環境に即した分かりやすい資料を作成するために、県内を流れる幹川だけでなく、その支川を含めた水系として県内河川の水生生物調査を行う。</p>
<p>実施機関名</p>	<p>北九州市環境科学研究所</p>
<p>調査研究課題名 および概要</p>	<p>干潟・浅場や藻場が里海里湖流域圏において担う生態系機能と注目生物種との関係(Ⅱ型研究)</p> <p>本市洞海湾における付着動物の生息状況と生息環境との関係を検討する。</p> <p>平成3-4年及び平成22-24年に実施した坪刈りによる付着動物調査により、優占種であった二枚貝(主に外来種)が減少し、湾全域で付着動物の均衡性が高まっていることが分かった。本調査では、二枚貝が減少した原因を解明することを目的とし、坪刈り調査データと25-27年度実施の目視調査データを用いて水質や生息環境の変化と付着動物生息状況との関連性をさらに検討する。</p>